

大豆栽培管理情報

平成23年7月下旬
高岡市農業協同組合
高岡農林振興センター

1. 開花期以降のうね間かん水の実施

開花期以降の土壤水分不足は莢数の減少や子実の肥大不足につながります。これから9月上旬までは、晴天が3~4日以上続いた場合は、土壤の乾き具合に応じてうね間かん水を行きましょう。かん水は短時間で行い、ほ場全体に水が行き渡ったらすぐに排水しましょう。

2. 病害虫防除は適期に確実に！

紫斑病やカメムシ類の基本防除は、適期に確実に実施しましょう。



ホリカメムシ

アオカメムシ

表 基本防除の目安

	防除時期		対象病害虫	薬剤名および散布量
基本防除	1回目 莢が伸びきった頃	単作：8月10日頃 麦跡：8月17日頃	紫斑病、カメムシ類 マメシクイガ	スミチオンベルコート粉剤DL 3kg/10a
	2回目 1回目の2週間後	単作：8月25日頃 麦跡：8月30日頃	紫斑病、カメムシ類	マネージトレボン粉剤DL 4kg/10a
随時防除	大豆1本当たり6個以上の葉巻が見られたら(7月6半旬)		ウコンノメイガ	サイアノックス粉剤 4kg/10a
	葉の黄色斑点や成・幼虫が見られたら		アブラムシ類、 カメムシ類	トレボン粉剤DL 4kg/10a
	葉が黄化し、葉裏に成虫が確認されたら (高温・乾燥で発生しやすい)		ハダニ類	ダニトロンフロアブル 1,000倍 または ニッソラン水和剤 2,000~3,000倍
	葉や莢に食害が見られたら(8月中旬頃)		アブラムシ類、カメムシ類、 アブラムシ類、鱗翅目幼虫	ダントツH粉剤DL 4kg/10a

※散布前に必ず薬剤を確認し、農薬が莢や茎葉にしっかり付着するように散布しましょう

3. 早めの雑草対策を！

雑草の発生が目立つ場合は、雑草の種類や葉齢に応じ、適切に除草剤を使用しましょう。

薬剤名	適用雑草	使用時期	使用方法	散布量	総使用回数	使用上の注意点
ポルトフロアブル	1年生イネ科	雑草生育期(イネ科雑草3~10葉期) (ただし、収穫30日前まで)	莖葉処理	200~300mL/ (水100L)	1回	・イネ科雑草発生後に使用 ・散布前後が低温直射 では生育抑制の恐れあり
ロックス	1年生雑草	雑草生育期(雑草草丈15cm以下) 大豆本葉3葉期以降 (ただし、収穫30日前まで)	畦間 散布	100~200g/ (水70~150L)	1回	・非選択性除草剤なので、大豆にかからないよう十分注意
バスタ液剤	畑地1年生 雑草	雑草生育期・畦間散布 (ただし、収穫28日前まで)	畦間 散布	300~500mL/ (水100~150L)	3回 以内	・非選択性除草剤なので、大豆にかからないよう十分注意

1. 大豆と根粒のいい関係！

水分不足と根粒窒素固定

根粒は豆の根に寄生し、豆から糖やでんぷんをもらって生きています。かわりに空気中の窒素を固定して、窒素分として豆が利用します。豆が一作に吸収する窒素のうち、4～6割は根粒による固定窒素です。根粒は過湿による酸素不足や過乾燥による土壌水分不足で活性が低下します（図1）。

特に開花期以降の水分不足は、莢数の減少とともに根粒活性の低下による子実の肥大不足のため、減収率が大きくなっています（図2）。

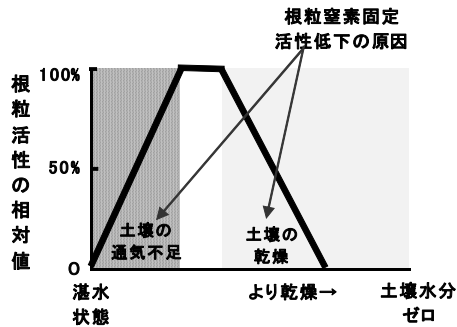


図1 土壌水分と根粒窒素固定活性の関係の模式図（島田，2004より改編）

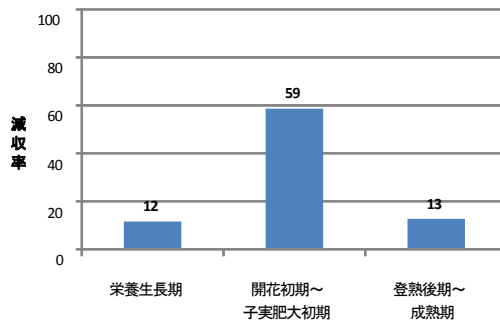


図2 生育ステージ別の水分不足による減収率（ヒラ ーら、1974 農業技術体系第6巻 追録第23号：2001年より）

2. 花が咲いたら大豆にもかん水を！

畦間かん水の実施

開花期から50日間は、晴天が3日以上続いて土が白く乾いたら畦間かん水を行い、適度な水分や酸素を供給し、根粒による窒素固定を高めましょう。

<畦間かん水のポイント>

畦間かん水の方法	◎チェックポイント	×失敗事例
時期：開花～50日間 目安：3日以上晴天 	①水がほ場全体に行き渡るように水の流れ道をつくる。 ②かん水前に暗渠排水の排水口を閉める。 ③流量が十分確保できる状態で入水する。 ④葉のしおれや葉が裏返る等の水分ストレス症状が現れる前にかん水する。 ⑤かん水実施前までに除草対策を行う。	溝の連結が不十分で、部分的に湿害や青立ちとなった。 閉め忘れにより水が行き渡らなかった。 水量が少ないため、水口周辺で水の流れが止まった。 あわてて日中かん水しようとしたが、用水不足でできなかった。 雑草で水の流れがふさがれてしまう。